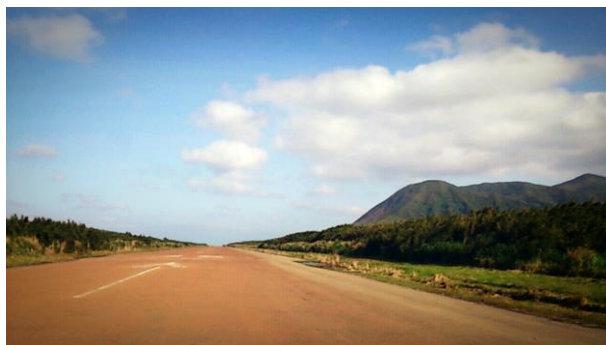


【自然環境】

鹿児島県のトカラ列島に属する島である。十島村では中之島に次いで2番目に大きい。活火山からなる島で、島の中央部の御岳（標高 799m）火口付近周囲 2km は、火山活動のため立ち入り禁止となっている。島のあらゆる地が琉球竹の自生地となっており、春には溶岩原一面にマルバサツキが開花する。

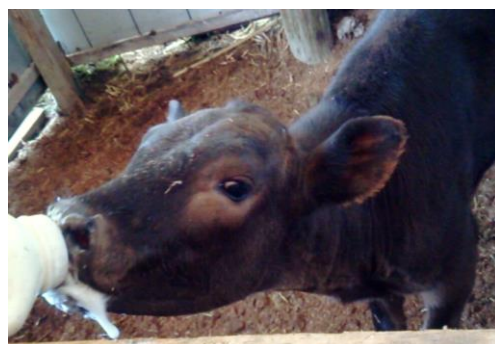
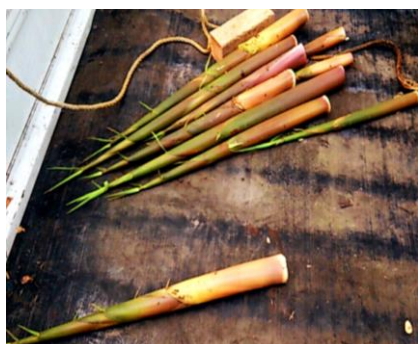
**【社会的背景】**

島の南西部約 1 平方キロメートルの範囲に 50 名程の島民が生活する。1813 年の御岳大噴火により全島民が避難し約 70 年間は無人島となったが、明治期に奄美大島出身の藤井富伝らが入植し、開拓が始まった。また、1967 年にはヒッピーと呼ばれる既成の価値観にとらわれない生き方をめざす人々が共同生活をする場をつくったという歴史もある。

【住民の生活】

島の大部分は立ち入り禁止であるが、竹林や火山灰の土地を開拓して島民は今も自然に寄り添った生活を続けている。島には売店がなく、物資はすべて週 2 回往復するフェリーにより届けられる。農業や畜産をするかたわら、民宿の経営やフェリーの入出港にたずさわっている。

春には琉球竹が、続いてトビウオが一斉にとれるようになり、トビウオの酢漬けや卵のカラスミも作られるとのこと。島には黒いトカラヤギや野生化した白いヤギがおり、ヤギを飼育する家庭もある。

**【医療供給体制】**

「十島村立諏訪之瀬島へきち診療所」があり、看護師が一名駐在している。ここには十島村全

体の薬剤等の必要な医療物資が保管されており、他島への分配が行われる。

歯科医療としては歯科巡回診療が行われるが、医科としては月に2回、日本赤十字病院の医師が診療に訪れる。

診療所にはライブカメラもあるため、緊急時の医師からの指示を仰いだり、診断を要する場合にも対応できる。緊急な場合にはヘリコプターにより奄美大島もしくは市内の病院に搬送される。

診療所に訪れる島民は異変を感じたら早めにきてくれるため、対応しやすいとのこと。

また、小中学校分校の保健指導の先生のはたらきかけにより、子どもたちの健康への意識は高まってきているとのこと。



【実習概要】

| 日付 | 内容 |
|------------|---|
| 4月 21 日 | <ul style="list-style-type: none">・義歯調整・義歯修理・カリエス処置、コンポジットレジン充填・Tec 作製・直接覆髄・学校健診（口腔内診査）・フッ素塗布・シーラント・スケーリング、PMTC |

【振り返り記録】

限られた環境の中で提供できる医療には限界があるが、その限界をどこまで引き上げられるかは医療者にかかっていると思った。日常の整えられた環境の中で診療を行うときであっても、常に一手、次の一手を考えながら手を動かす習慣を身につけなければ、いざ今回のような環境において納得のいく医療を提供することはできないだろうと感じた。

そして、医療者側が提供しうる最大限の医療を生かすためには、何よりも島民の方々の理解と信頼が不可欠であり、島の看護師さんとの連携が非常に重要であることを知った。

また、今回の診療をとおして、ほとんどの小児の口腔状態が良好であったのに対し、成人には重度の齲蝕や根尖病巣、歯周疾患の進行など、口腔状態がやや不良である様子が見受けられた。小児においては学校の保健指導の先生や家庭での指導が充実していること、離島巡回診療により年に1,2回は健診や予防処置を受ける体制が整っていることが成果として実を結んでいるものと考えられる。一方、成人には自身の口腔環境の向上を意識する機会が少ないうえに、巡回診療だけで行える治療には限りがあるため、その蓄積が原因となっているのではないかと考えられる。今後、より一層の成人へ向けたモチベーションの向上が求められるのではないかとと思う。